

佐野東高キャリアプロジェクト 啓 ～未来をひらく～ 全体計画

令和2(2020)年4月1日

キャリア教育の目標 生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる。 高等学校のキャリア発達段階 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 高等学校のキャリア発達課題 ○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての勤労観、職業観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路の現実吟味と試行的参加	校 是 啓 知を啓き 心を啓き 新しい伝統の扉を啓く	地域の特徴 古くからの住民が多いため、郷土愛が強く穏和な気風である。変化を求めるよりも、現状維持を志向する傾向がある。 保護者の願い 自分の将来を真摯に考え、後悔のない進路選択をすることを願っている。 生徒の実態 大学進学希望者が大部分を占める。素直だが学びや進路選択に関し受身で、チャレンジ精神や競争心に若干欠ける。
	学校教育目標 豊かな教養と高い知性を備え、心身ともに健全で優れた品性を身につけ、社会の発展に寄与する人間の育成。	
	育てる生徒像 ○豊かな教養と高い知性を備え、生涯にわたって自己実現を目指す生徒 ○心身ともに健全で礼節をわきまえ、優れた品性を身につけた生徒 ○広い視野に立って物事をとらえ、自他の敬愛と協力によって社会の発展に寄与する生徒	

佐野東高キャリアプロジェクト啓の目標 ○希望進路を実現するための確かな学力の育成。 ○人生を主体的に生きるための将来設計能力の育成。 ○仲間と協力して困難を乗り越え、ともに成長していく力の育成。 ○社会に積極的に参画しその発展に寄与するための態度と能力の育成。

各教科・科目 ○適切な学習習慣を身につけさせると共に、希望進路実現のための確かな学力を身につけさせる。 ○各教科・科目で学ぶ内容や身につく力と、将来の学問や職業、社会生活との関連に気づかせ、学ぶ意義を理解させる。 ○生徒が自分の考えを発表する機会を設け、コミュニケーション能力を高める。	コア・プログラム (総合的な探究の時間を中心とした学習活動) ○体験的活動や探究活動を通して、広い視野から自身の学問的・職業的関心の所在を探り、他の学習活動で得た経験や知識もふまえつつ、希望進路とその理由を明確にさせる。 ○一連の学習活動を通して、将来設計能力やコミュニケーション能力、課題発見・探究能力を育成する。	特別活動・その他の活動 ○読書指導や各種講演会を通して、自己のあり方生き方、将来の職業・学問分野に対する知識や考え等を深めさせる。 ○学校行事や生徒会活動、家庭クラブ活動、HR活動、部活動等を通して、企画力、運営力、コミュニケーション能力、チームワーク力、規範意識等を身につけさせる。 ○地域活動やボランティア活動を通して自己有用感を高め、社会参画・社会貢献への意欲を育む
---	--	--

	1年【職業・学問の扉をひらく】	2年【未来をひらく進路設計図を描く】	3年【希望進路実現に向けて行動する】
年次目標	○自己理解を深化し、職業観・勤労観を育成させる。 ○職業や学問に対する興味関心を拡充させる。	○日常生活に見られる問題の解決方法を考えることを通して、探究的な見方・考え方を身につけることができる。 ○希望進路と理由を明確に表現することができる。	○希望進路に関わる自身の課題を見だし、解決できる。
指導内容	○自身の価値観や興味関心を深く掘り下げさせる。 ○第一線で活躍する職業人や仕事の現場に触れさせることにより、職業と社会や自分との関わりを考察させる。 ○将来の社会人・職業人としての自立に向け今の高校生活で何を心がけるべきか考えさせる。	○探究のプロセスを踏まえた学習活動を通して、探究的な見方・考え方を身につけさせるとともに、進路に対する意識を一層深めさせる。 ○自分と社会との関わりを考えさせることを通して、進学する目的を明確にさせ、それをもとに志望校や学部学科を主体的に選択させる。	○自身の研究課題に関わる情報を広く探索・分析させ、小論文等にまとめさせる。このことを通して課題追求能力を育成するとともに、学問の面白さの一端を体験させ、進路実現への意欲を高めさせる。
主な学習活動	○キャリア教育ガイダンス ○進路適性検査と結果分析 ○一日大学 ○職業人パネルディスカッション ○進路講演会 ○大学・企業訪問、および報告会 ○1年間のまとめ ○大学での学び方や学問内容に関するガイダンス・講演会	○探究学習の理解 ○探究テーマの設定、探究活動、成果発表 ○一日大学 ○オープンキャンパス参加 ○進路講演会 ○志望理由書の作成	○小論文トレーニング ○一日大学 ○進路講演会
備考	○運営組織 ・関係機関との交渉、指導に必要な資料の準備等はキャリアプロジェクト担当部署が行い、各時間の運営は担当部署と学年で協力して進めていく。 ○プログラム作成上の基本方針 ・地域、行政、大学等と連携することにより、興味関心や知見を広げさせる。また、外部講師招聘や外部機関訪問の機会を設定し、将来のロールモデルに触れさせるようつとめる。 ・自身の未来像形成につながるよう、講座ごとに主体的に事前・事後学習に取り組ませる。 ・未来をひらく力の育成につながるよう、できる限り生徒自身の手で企画・運営させる。 ○プログラムの特色 ・プログラム内容に応じてグループワークを取り入れることにより、生徒同士で学び合い、刺激し合い、問題意識を高め合うことが期待できる。 ○その他 ・1年生について、1学期は各クラスで活動し、2学期以降は興味関心に合わせた学習集団(ゼミ)に分かれて活動する。 ・探究活動は個人、または4人以内のグループでの活動を基本とする。		